

3 高等学校

学習指導要領において**高等学校で扱う**がん教育に関連する内容の抜粋です。

高等学校〔第1学年〕 教科：保健体育（科目保健）

【高等学校学習指導要領】

(1) 現代社会と健康

ア 現代社会と健康について理解を深めること。

(ア) (イ)略

(ウ) 生活習慣病などの予防と回復

健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であること。

(以下略)

(1) 内容の(1)のアの(ウ)及び(4)のアの(イ)については、食育の観点を踏まえつつ、健康的な生活習慣の形成に結び付くよう配慮するものとする。また、(1)のアの(ウ)については、がんについても取り扱うものとする。

がん教育の手引き

P94～P98 参照

上記(ウ)については「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編」に以下のように示されている。

【解説】

(ア) (イ)略

(ウ) 生活習慣病などの予防と回復

がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることを理解できるようにする。

その際、がんについては、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて理解できるようにする。がんの回復においては、手術療法、化学療法（抗がん剤など）、放射線療法などの治療法があること、患者や周囲の人々の生活の質を保つことや緩和ケアが重要であることについて適宜触れるようにする。

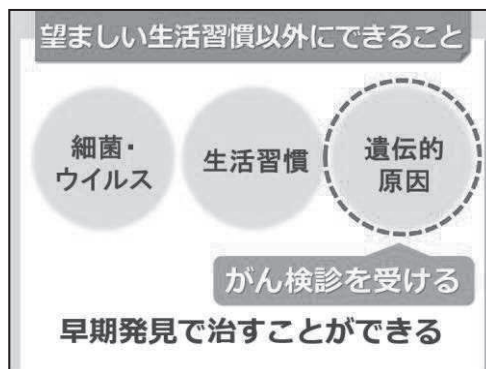
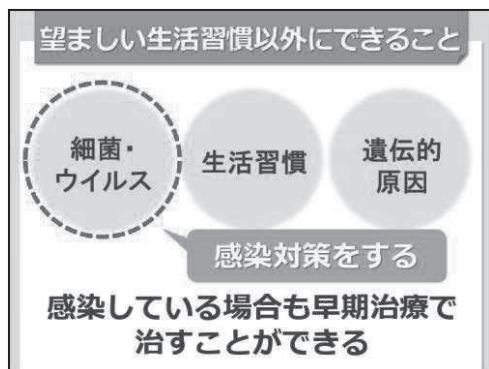
また、生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることを理解できるようにする。

なお、日常生活にスポーツを計画的に取り入れることは生活習慣病などの予防と回復に有効であること、また、運動や食事について性差による将来の健康課題があることについて取り上げるよう配慮する。

～学習指導要領に関連させてすぐに使える補助教材～
 <中学校・高等学校版> がん教育プログラム補助教材（平成 29 年 3 月）
 株式会社キャリアリンク（文部科学省委託事業）

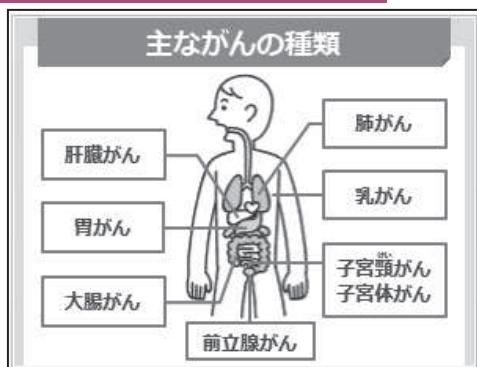
1 がんとは（がんの要因）

◎がんの要因については、中学校で既習し、さらに以下の内容が加わります
 がんについては、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて理解できるようにする。



がん教育プログラムモジュール4 「がんの予防」 参照

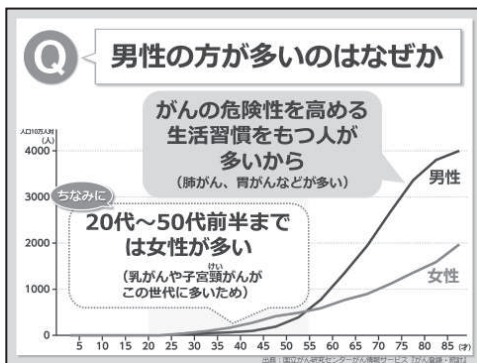
2 がんの種類とその経過



がんの名称	特徴など
胃がん	・ピロリ菌の感染が発病にかかわっていると考えられている。
大腸がん	・運動不足や肥満、大量の飲酒などが発病に関連している。
肺がん	・我が国では死亡者数が最も多く、特に男性に多い。 ・最大の原因は喫煙であり、たばこを吸う人が肺がんにかかる確率は、男性では吸わない人の4～5倍にもなる。
肝臓がん	・主な原因はB型及びC型の肝炎ウイルスの感染である。 ・大量の飲酒の習慣も、肝臓がんになるおそれがある。

がん教育プログラムモジュール3 「がんの発生と進行」 参照

3 我が国のがんの現状



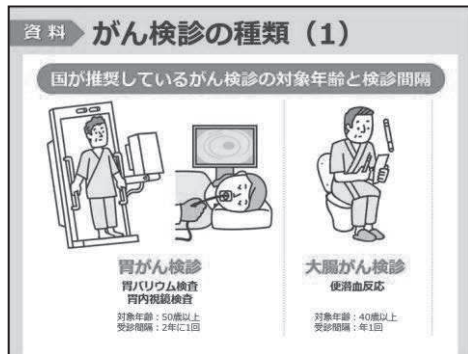
- ふりかえり**
- ☑ 日本人の2人に1人ががんになる。
 - ☑ 年齢が上がるにつれてがんになる率は上がる。
 - ☑ がんは誰もがなりうる病気。

がん教育プログラムモジュール2 「日本のがんの現状」 参照

4 がんの予防

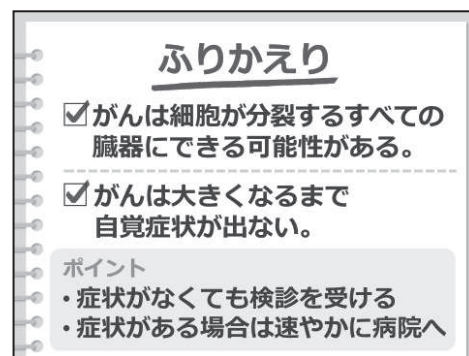
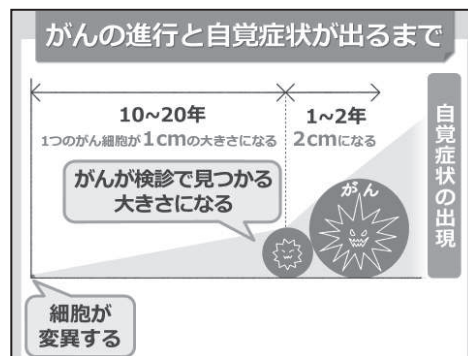
◎がんの予防については、中学校で既習し、さらに以下の内容が加わります。

定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることを理解できるようにする。

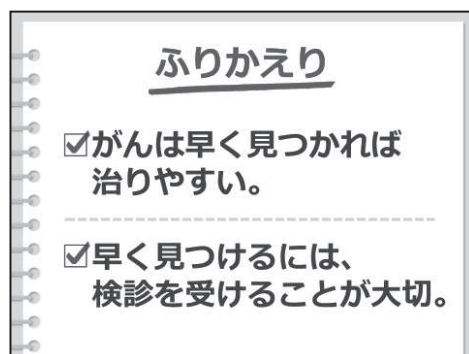
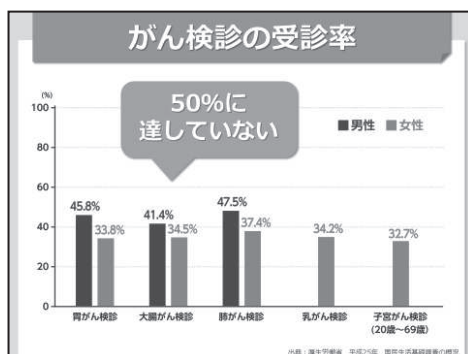


がん教育プログラムモジュール5 「検診の意味」参照

5 がんの早期発見・がん検診

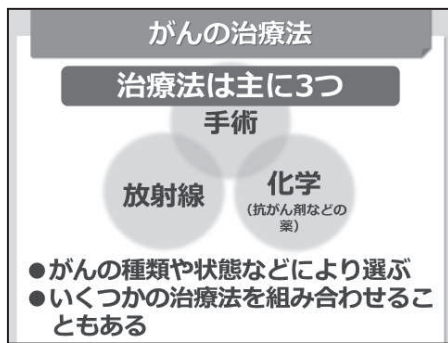


がん教育プログラムモジュール3 「がんの発生と進行」参照

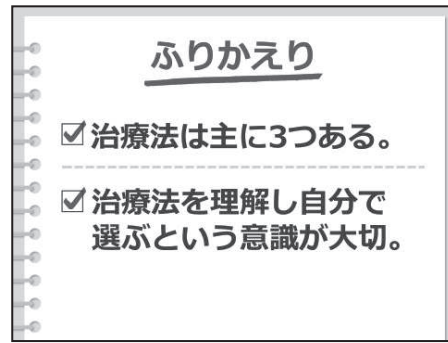


がん教育プログラムモジュール5 「検診の意味」参照

6 がんの治療

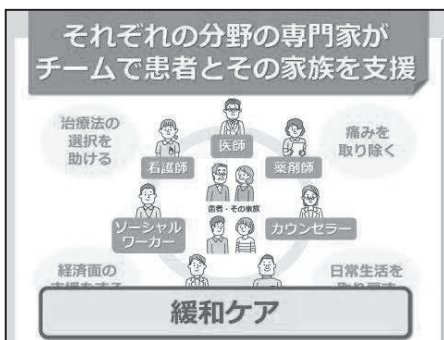


がん教育プログラムモジュール6

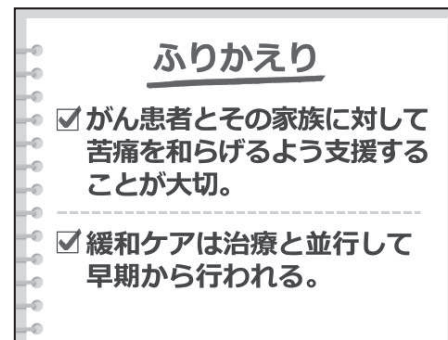


「がんの治療で大切なこと」参照

7 がん治療における緩和ケア



がん教育プログラムモジュール7



「がんの治療の支援」参照

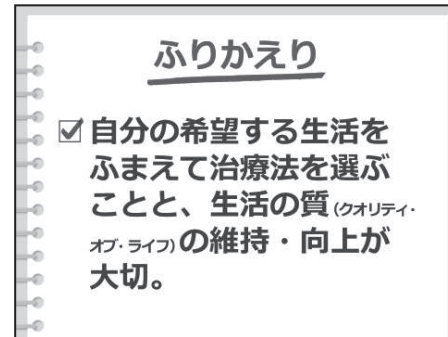
8 がん患者の生活の質

Q がん患者は何を望み
何を求めているのだろう

事例2

乳がんで胸に大きな傷が残り、
自信を失って閉じこもりがちに
なっていた。
患者の会に入って同じ乳がんの仲間と出会い、
貸切で温泉に入ることができるようになった。
好きだった旅行を楽しむことができるようになった。
これからは生き生きと自分らしく生きたいと
思っている。

がん教育プログラムモジュール8



「がん患者のおもい」参照

9 がん患者への理解と共生

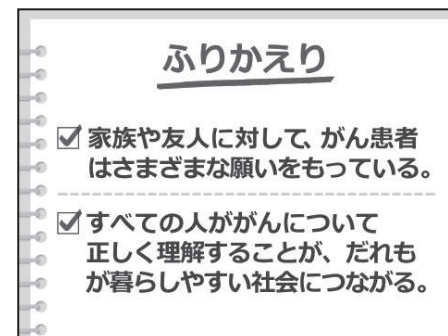
Q がん患者が暮らしやすい社会
とはどのような社会だろう

営業の仕事で働いていましたが、
30代でがんとわかり、手術と
抗がん剤治療を受けました。
今も定期的に病院に行って体調を
管理しています。
体力が戻りきらず、仕事を続ける
ことが難しくなり、退職せざるをえませんでした。
好きな仕事だったので、本当に残念でした。
ただその後、病気のことを理解してくれる職場と出会い、
今は、体調を優先して働くことができます。

がん教育プログラムモジュール9

「がん患者とともに生きる社会」参照

https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1385781.htm (令和3年2月現在)



＜指導例⑤＞ 高等学校 単元名「健康を支える環境づくり」

- 1 対象学年 (2学年) 教科・領域 (保健体育 科目保健)
- 2 指導形態 学級単位
- 3 外部講師 がん専門医, 看護師, 薬剤師

外部講師の話やアドバイスから、がん患者への寄り添い方や社会参加等を考える指導例です。



がん専門医

堂畑 雄一さん

佐久総合病院佐久医療センター腫瘍内科医師

地域がん診療連携拠点病院のがん専門医であり、がん教育外部講師としても活動をしている。

今回は、がんの発生の仕組みや予防・検診等の講義やケースの対象者の視点で考えるグループワークで助言をした。

＜授業の感想＞

- ・絶対がんにならない方法はないけれど、がんになりにくくすることはできると分かりました。その方法は、だれにもできることだったので、まずは家族に教えて、どんどん情報を広げていき、がんになる人、がんによって亡くなる人を減らしていけたらいいなと思いました。グループの話し合いでは、もし家族ががんになったら、自分は治療を受けてほしいと思うけど、がんになった人の思いを尊重しなければならないと思いました。
- ・がんは怖い病気だということは知っていたけど、2分の1の確率でがんになる人がいるということを知って、びっくりしました。治療や検査は、早い方が絶対にいいと思うけど、本人の意思も大切にしないといけないと思いました。今日のグループワークで、私は早く治療することが一番だと思っていましたが、友達の見解を聞いて本人の意思を大切にということを言っていて、確かにと納得することがありました。今日の授業のことをこれからの意思決定に役立たせていきたいです。
- ・グループワークで、「病院に行かせる」、「Tさんの意見を尊重する」など、全然違う意見がいろいろ出たり、自分では考えもしなかった意見が出たりして楽しかった。来てくれた先生が言ったとおり、自分たちが正しい情報を広めて、地域などのがんに対する思いが活性化すれば、少しはがんになる人が減ると思うし、そうなればうれしい。

4 授業の計画（2時間扱い） ※外部講師が関わった授業の計画です。

教科等	学習指導要領に基づいた学習内容	講師<評価> 等
保健体育 (1時間)	<p>【高等学校学習指導要領】</p> <p>(4) 健康を支える環境づくり</p> <p>ア 健康を支える環境づくりについて理解を深めること</p> <p>(ウ) 健康に関する環境づくりと社会参加</p> <p><ねらい></p> <p>自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりが重要であることについて理解できる。</p>	学級単位（教科担任）
保健体育 (1時間) 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・堂畑先生からがんが発生する仕組み、がんの予防、検診、治療等の話を聞く。 ・ケーススタディ「がん患者と歩む」 <p><ねらい></p> <p>がん患者の治療中、治療後の「生活の質」を大切にすることをもち、ディスカッションを通して、健康に関する環境づくりやその人らしく生きるために何が必要か、自分や家族、ケースの対象者の視点に立って考えることができる。</p>	<p>学級単位</p> <p>外部講師とのTTによる授業（がん専門医、看護師、薬剤師）</p> <p><思考・判断・表現></p> <p>観察・学習カード</p>

5 講師と事前打ち合わせのポイント



- ・生徒の実態、事前アンケートから分かるがんについての認識を外部講師と情報共有する。
- ・授業で考えたことを生活につなげていけるようにしたいという学校のニーズを伝える。
- ・高校生から社会（地域や家族）に伝えられる活動は何か。どんなことができるかを考えてもらいたいという外部講師の思いや考えを聞く。




<ケーススタディ「がん患者と歩む」の確認>

4つのケースの中から自分の指定されたケースについて、色々な視点（人、もの、タイミングなど）から考えられるように促す。

<グループディスカッションの進め方の確認>

- ① グループであらかじめ司会者、書記、発表者を決める。
- ② それぞれ事前学習で考えてきたことを基にディスカッションを行う。
- ③ グループ内の意見を付箋に記載し、模造紙に貼ってまとめる。
- ④ 発表する。

6 授業の概要（2時間扱い中 第2時）

段階	学習活動	指導の様子 ◇評価	教師の支援
導入 5	1 講師との出会い。 2 本時の学習の流れを確認する。		<ul style="list-style-type: none"> 外部講師を紹介する。腫瘍内科医，緩和ケア認定看護師，がん化学療法看護認定看護師，薬剤師 ケーススタディ「がん患者と歩む」のプリントで流れを確認する。※P38 参照
展開 45	3 堂畑先生の講義を聞く。 4 それぞれが事前学習で考えてきたことを基にディスカッションを行う。 5 グループ内の意見を付箋に記載し模造紙に貼ってまとめる。	<p>「人類をがんから守る」</p> <ul style="list-style-type: none"> がんが発生する仕組み がんの予防，検診，治療 等 <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> 早く治療してほしい。 相手の気持ちを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードを使ってメモを取るよう伝える。 あらかじめ決めてあった司会者の進行で話し合いを進めるよう伝える。 意見が出た時に付箋にまとめて，どんどん付箋に書くように伝える。 付箋は書記以外が書いても良いことを伝える。
まとめ 10	6 グループの発表を聞く。 7 本時の振り返りと事後の学習カードの扱いについて説明を聞く。	 <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> がんになった人の気持ちを尊重したい。 <p>◇ディスカッションを通して，健康に関する環境づくりやその人らしく生きるために何が必要か，自分や家族，ケースの対象者の視点に立って考えることができたか。</p> <p><思考・判断・表現></p>	<ul style="list-style-type: none"> 発表するグループをあらかじめ伝えておく。 授業後の放課後以降で廊下に模造紙を貼り出し，それらを参考に学習カードにまとめ，後日提出するように伝える。

【ケーススタディ「がん患者と歩む」のプリントの一部】

Case. M

Mさんは40代の女性。お母さんを想定していますが、お父さんでも叔母さんでも構いません。あなたのことをとても大切に思っている大人を想像してください。※性別を問わない。

いつも明るいMさんですが、半年前から時々ひどく疲れた様子が見られました。家族のいないところで痛みをこらえている姿を偶然見かけてしまったこともあります。Mさんに何か良くないことが起こっているのかも知れないと、あなたの中に不安が募っていきました。

1週間の検査入院から帰宅した翌日のこと。夕食のあとでMさんがあなたに告げました。

「治らない病気に罹ってしまって、あまり長く生きられないと言われたの。受験で大切な時に、家のことで迷惑をかけるかも知れないけれどごめんね」

Q1：あなたはMさんにどんなことをしてあげられると思いますか？

Q2：あなたが大きな不安や悲しみから自分を守るために、どんな方法を思いつきますか？

【学習カード】

担当するケース Case 2年 組 番 氏名

1. その時の場面を想像し、あなたの考えを素直に考えてみてください。

	質 問	自分の考え
Q1		
Q2		

*下記の項目は授業後に記入してください。

2. 他の人たちの考えに触れてみて、気づいたことや大切だと感じたことはありますか？

3. 今回来ていただいた先生方（医療センター）に聞きたいことはありますか？

4. 授業の感想

<指導例⑥> 高等学校 単元名「がんと健康」

- 1 対象学年 (1学年) 教科・領域 (保健体育 科目保健)
- 2 指導形態 学級単位
- 3 外部講師 がん専門医

外部講師の講義をもとに、がんの早期発見、治療やがんに対する保障など社会的な対策の必要性を考える指導例です。



がん専門医

進士 明宏さん

諏訪赤十字病院 腫瘍内科部長

地域がん診療連携拠点病院のがん専門医であり、がん診療推進室 室長も務め、出前授業も実施し、がんに関する正しい知識の普及に取り組んでいる。

今回は、医療制度や具体的な治療法の模擬体験などを入れ、その情報をもとにグループディスカッションを行った。

<授業の感想>

- ・がんとは定期的な治療が必要になることがある、やっかいな病気という面があるのを強く認識した。父親が病気をしたことがあるが、職やお金の面での不安がすごかった。しかし、会社は手厚いサポートをしてくれて、今も働けている。やはり、患者の精神面の安定を少しでも助けるために雇用先の障害やがんに対する保障は必要だと思う。先日、ストマの特集を見た。ストマは透明なものしかなく、精神的につらかったという。しかし、水着を着て撮影することで声を広め、最近色がついたものも増えてきたという。あるべきは、そういった声を拾い、実現するような制度だと思う。
- ・がんになった後のことまで考えたことはなかったけど、家族や友達、自分ががんになった時のことを考えてみて大変なことがたくさんあることを知った。これからがんになったら治療費などお金がかかるのに仕事を続けられるかわからないというのはすごく大変だと思った。また、治療後に普段と生活が少し変わったりすることもあると考えると、がんなどはなる前の予防ももちろんだけど、治った後や、治療後にもたくさん問題があることを知った。
- ・人口肛門については知っていたが、実際に疑似体験をするのは初めてだった。ストマとかは、においや見た目、取り扱いなど大変そうだった。何よりも、今まで数十年生活してきたスタイルを大きく変えなければいけないことが大きな負担になりそうだと感じた。恥ずかしかったり、不安だったり精神的なダメージも大きいだろうと思った。(中略)自分や身近な人ががんになったとき、どう対応したらいいのか、今は少し想像できない。今日の講義を聞いて、一人で悩まずに、相談することが大切だと改めて教わったので、実践していきたいと思う。

4 授業の計画（2時間扱い） ※外部講師が関わった授業の計画です。

教科等	学習指導要領に基づいた学習内容	講師<評価> 等
保健体育 (1時間)	(1) 現代社会と健康 ア 現代社会と健康について理解を深めること ウ 生活習慣病などの予防と回復 <ねらい> 一次予防で、がんを防ぐことを確認し、気を付けていてもがんになる可能性があることから、がん検診の必要性があることを理解する。	学級単位 (教科担任) <知識> 学習カード
保健体育 (1時間) 本時	「がんと健康」 <ねらい> 二次予防で、早期発見、治療が必要であることを理解し、外部講師から実際にかかる大まかな治療費などの情報をもとに、実際に自分や家族が、がんにかかったときに何ができるか考え、社会的な対策が必要であることを理解できる。	学級単位 外部講師とのTTによる授業 (がん専門医) <思考・判断・表現> 観察・学習カード

5 講師と事前打ち合わせのポイント



- ・生徒同士のディスカッションを取り入れて考えさせたいという学校のニーズを伝える。
- ・できるだけ身近な話題や本物、実際を見てもらいたいという外部講師の思いや考えを聞く。
- ・生徒の実態、事前アンケートから分かるがんについての認識を外部講師と情報共有する。
- ・TT で実施する際の役割分担、時間配分を決める。

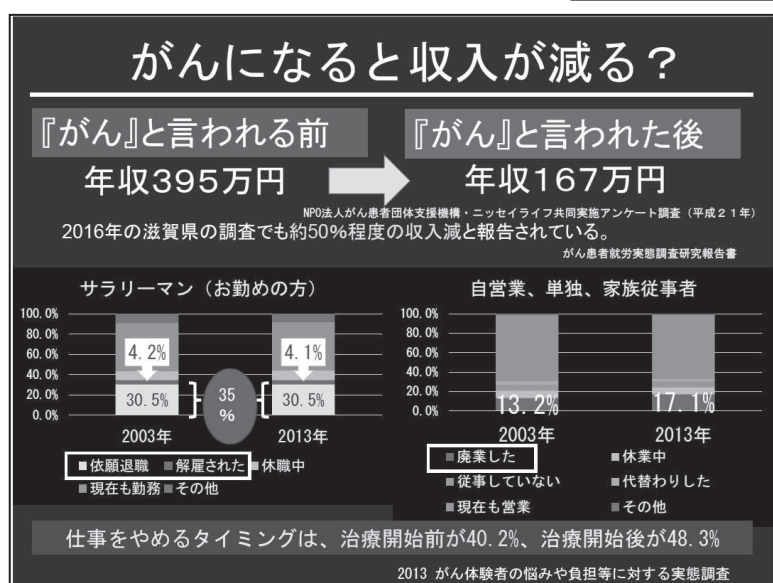
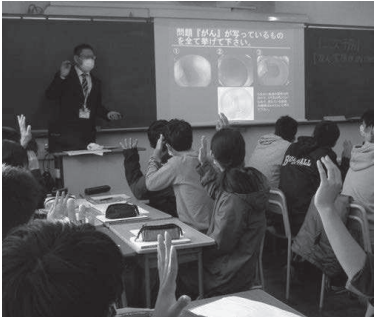



図3は、ディスカッションで使用するがん治療前後の収入の変化を表したスライドです。授業のねらいを明確することで使用するスライドや資料が決まってきます。

図3 がんになると収入が減る？

6 授業の概要（2時間扱い中 第2時）

階	学習活動	指導の様子 ◇評価	教師の支援
導 入 5	1 前時の学習を振り返り、本時のねらいを確認する。	<p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんを防ぐには、よい生活習慣が大事だった。 ・もしもがんにかかってしまったらどうすればよいだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一次予防で、がんを防ぐことを確認し、気を付けていてもがんになる可能性があることから、がん検診の必要性について想起できるように促す。
展 開 50	<p>2 「友人・家族ががんにかかったら」についてディスカッションをする。</p> <p>3 グループごと発表する。</p> <p>4 進士先生の講義を聞く。</p> <p>5 「40代で自分が、がんにかかったら」についてディスカッションをする。</p> <p>6 グループごと発表する。</p>	<p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段通りに接したい。 ・できるだけ会話をしたい。  <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんは様々治療法があり、金額にも違いがあるのだな。  <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人で悩まず、相談できる場所が必要だと考えました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションでは、どのような声掛けをするか、どんな行動ができるかを確認するよう伝える。 ・あらかじめ発表するグループを伝えておく。 ・治療における大まかな金額などの次のディスカッションに必要な情報を含める。 ・話し合いの過程を見て、40代が家庭を支える立場になっている年齢であることを補足説明し、何に困るだろうか、心配事をどのように克服できるかについてディスカッションするように伝える。
ま と め 5	<p>7 本時の振り返りをする。</p> <p>8 進士先生のまとめの話を聞く。</p>	<p>◇実際に自分や家族が、がんにかかったときに社会的な対策が必要であることを理解し、何ができるか考えることができたか。</p> <p><思考・判断・表現></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・治療の実際で明らかになったこと、困りごとや実際の事例を振り返る。

＜指導例⑦＞ 高等学校 単元名「生涯を通じる健康～がんをサブテーマとした探究的な学び～」

- 1 対象学年 (2学年) 教科・領域 (特別活動・保健体育 科目保健)
- 2 指導形態 学校全体・学級単位
- 3 外部講師 がん専門医

保健講話をうけて「がん」をサブテーマにした探究的な学びを取り入れた指導例です。



がん専門医

小泉 知展さん

信州大学医学部包括的がん治療学 教授

大学の医学部で、がん専門の若手医師の育成や診療・研究活動を行うかたわら、長野県がん教育推進会議のアドバイザーや県内の学校での講演活動等、がん教育の普及に努めている。

今回は、生徒の進路指導の内容も含めて講演を行った。

＜保健講話の感想＞

- ・若いころからがんへの意識が大事だとおっしゃっていましたが、私も子宮頸がんの予防接種を受けました。最近問題になっていましたが、先進国で子宮頸がんの注射を受ける人がこんなにも少ないのは、日本だけだと看護師さんも言っていました。その時から私はがんのことについて興味を持ち始めるようになりました。がんは日ごろの生活習慣によっておこるものだと思うので、若いころからそういう意識を持ち始めることが大切だと、今回の講演で改めて感じました。
- ・がん患者には、その人にしかわからない辛さや苦しみがあり、私たちにはその苦しみはきっと理解できるとははっきり言えないと思いますが、「犬のおまわりさん」の話にあったように寄り添って一緒に悩むことは私たちにもできると思います。「病は気から」という言葉があるように、心の状態は体にも大きく影響すると思います。また、そのためにもがんについてさらに広く学ぶ必要があると思います。私たちがもっと関心をもつことで、患者の方が孤独という不安から抜け出し、一緒に乗り越えていくことで、共生していくことにつながると思います。

4 授業の計画（2年次10時間扱い）

教科等	学習指導要領に基づいた学習内容	講師<評価> 等
<p>1年次 保健体育 (2時間)</p>	<p>(1) 現代社会と健康 (ウ) 生活習慣病などの予防と回復</p> <p><ねらい> 健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることを理解する。</p>	<p>学級単位（教科担任）</p> <p><知識> 学習カード</p>
<p>2年次 特別活動 ホームルーム活動 (1時間)</p>	<p>ホームルーム活動(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 オ 生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立</p> <p><ねらい> 節度ある健全な生活を送るなど現在及び生涯にわたって心身の健康の保持増進を図ることを理解する。</p> <p>保健講話「がんについて知り、学び、伝えること」</p>	<p>学校単位 外部講師による保健講話</p> <p>・事前アンケートにより、生徒の実態や学校の対応（配慮点）について伝えておく（養護教諭まとめ）</p>
<p>保健体育 (9時間) 本時 9時間扱い中 第2時</p>	<p>(3) 生涯を通じる健康 イ 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。</p> <p><ねらい> 外部講師の保健講話や保健の授業で学んだことを生かし、生涯を通じる健康課題、医療制度など探究的な学びの中で「がん」をキーワードとして取り上げて、将来予想される立場から自らの問いに対して考え、解決方法を考えることができる。</p> <p>例えば、「実体験 現在の気持ち」「がんとどのように向き合うか」「今後必要となる技能習得」 ※第2時における内容やねらいです。</p>	<p>学級単位（教科担任）</p> <p><思考・判断・表現> 学習カード・プレゼンツール</p>

5 講師と事前打ち合わせのポイント

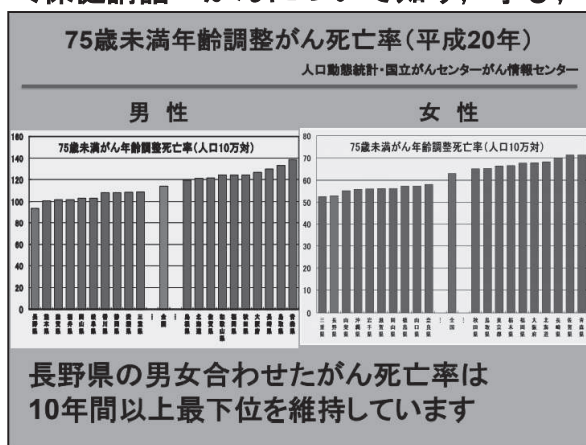
- ・保健講話に関わって、養護教諭による連絡・調整、アンケートの作成 等
- ・学校単位での保健講話になるので、学校の特色や願う子どもの姿等について外部講師に説明する。(下記「本校の取組の特色・がん教育を通して願う子どもたちの学びの姿」参照) また、医療系の進路を希望する生徒が多いことから講話の内容に在宅医療に関わる医療従事者の紹介をお願いする。
- ・事前アンケートにより、生徒の実態や思い、配慮が必要な生徒についての情報を共有する。
- ・身内が闘病中、闘病していたという場合の対応を相談しておく。例えば、つらくなりそうで聞くことができない場合は、担任に申し出て席を外してもよいと講演前に伝えるなど。

<本校の取組の特色・がん教育を通して願う子どもたちの学びの姿>

本校の生徒の中には医師、薬剤師をはじめ医療系に進む生徒もいる。総合的な探究の時間の中で、「広い知識と教養および未来を担う自覚」「論理的思考力と主体的課題解決力」「情報を正しく理解し伝えたり発表したりする力」をつけるため、自分たちでテーマを見つけ、調べ、分析考察し、研究成果をポスター発表している。

がん教育においても、保健の授業から知識等を学び、がんについて探究的な視点で考え、自分のできることを考えられる生徒に育ててほしいと考えている。その一つの機会として、小泉先生の講話を聞き、理解を深め、現状を理解し課題を見つけ、自分ができることは何かを授業の中で考えて意見交換できることを望んでいる。講話からお互いに意見交換し、その中から自分たちで考えたことを、ICT を活用し発表できるようにしたい。

<保健講話「がんについて知り、学び、伝えること」資料の一部>






在宅医療に関わる医療人

- 在宅医
- 介護支援専門員(ケアマネジャー)
- 訪問看護師
- 薬剤師
- 理学療法士・作業療法士・言語療法士
- 介護福祉士・ヘルパー
- 訪問入浴業者
- 地域ボランティア など

<保健講話の主な内容>

がん教育の基本的な内容やがんの現状、長野県はがんの死亡率が低いこと、男性、女性で差があること、年齢が上がるにつれて罹患しやすくなること、進路指導の一環として、在宅医療に関わる医療人などについて 等

6 授業の概要（9時間扱い中 第2時）

段階	学習活動	指導の様子・◇評価	教師の支援
導入 5	1 前時の確認をする。 2 ペア分けをする。 3 探究学習に沿った流れの説明を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・がんによる死亡率が低い長野県人として」について公的データやNIEを利用しながらペアで探究の方向性を決定するように伝える。 ・19～20 グループに分ける。
展開 40	4 ペアで今後の方向性を決定する。	 <予想される反応> ・立場を女性として、研究テーマを子宮頸がんの現状にしてみよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がそれぞれの立場に立って、がんと共に生きる時代に向けてできることを提案するように伝える。 ・検索ツール、プレゼンツールを利用し、ペアごと以下のようにまとめるよう伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【キーワード1】 子宮頸がんの現状</p> <p>【調査】 1万人のうち3分の1が亡くなる。 早期発見すれば治療しやすい。</p> </div>
まとめ 10	5 方向性の発表をする。 6 次時の確認をする。	 <予想される立場> ・がん患者家族，食品メーカー，心理士，がん患者，被喫煙者，臨床検査技師 等 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇「がん」をキーワードとして取り上げて、将来予想される立場から自らの問いに対して考え、健康に関する原則や概念に着目して解決方法を考えることができたか。<思考・判断・表現></p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・共同学習支援ツールを利用し、以下のような情報を生徒間で共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>立場：市長</p> <p>【調査結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受動喫煙は体に悪い。 ・講演を聞いたらタバコは嫌だと思った。 <p>【今後の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タバコの有害物質の規制の強化 ・喫煙所以外での喫煙を条例で禁止 ・子供に対するがん講演を増やす。 ・〇〇市を綺麗な町と売り出す。 </div>